

(3) 災害等緊急時への対応

中期目標	市が中核市への移行に向けて検討を進めているなか、大規模災害の医療や感染症対策など医療拠点としての役割を認識し、市及び地域の医療、保健、福祉等に係る諸機関と連携・協力して、迅速かつ的確に対応できる体制を構築すること。
------	---

中期計画	年度計画	法人の自己評価	評価委員会の評価		
		実施状況（判断理由）	評価	評価	評価判断理由、意見など
災害時において、市や地域医療機関と連携しながら市民の安全確保に率先して取り組むなど、「災害対応病院」としての役割を果たします。そのために、平時から、対応マニュアルの整備や災害医療に関する研修、医療救護を想定した訓練等を実施します。 また、新型インフルエンザなどの既存の感染症に加え、新興感染症の発生時においても、診療体制を確保するとともに、先導的かつ中核的な役割を担います。	「災害対応病院」として、災害時において他の医療機関で対処できない傷病者の受入・治療や、市が設置する救護所への救護班の派遣や医薬品の提供などを行います。 また、重大な感染症への対応として、平時から対策訓練を実施するほか、流行時には対策行動計画に基づき診療体制を確保します。	<p>平成 28 年 1 月に市から指定を受けた「災害対応病院」として災害発生時に適切に対応できるよう、訓練等を実施しました。</p> <p>院内では、平成 29 年 2 月に院内災害訓練を実施しました。模擬傷病者 20 名の受け入れやトリアージなど災害対策マニュアルを基に体制の発動や実働について検証しました。</p> <p>手術室・I C U においては、災害初動期における個々の行動内容を記載したアクションカードの見直しを行いました。</p> <p>看護部では、平成 28 年 10 月に災害対策プロジェクトチームを発足し、月 1 回の活動を行うとともに、平成 29 年 2 月の院内災害訓練にもチームとして参加しました。</p> <p>また、国や県等の訓練に参加しました。平成 28 年 11 月は県や医師会等の主催による南海トラフ地震を想定した合同防災訓練、平成 28 年 12 月には市消防本部の集団災害自己対策訓練、さらには同年 12 月の厚生労働省広域災害救急医療情報システム入力訓練にそれぞれ参加しました。</p> <p>そのほか、日本看護協会主催の災害支援ナース養成研修や J M A T （日本医師会災害医療チーム）研修、M C L S （多数傷病者への対応標準化トレーニングコース）研修、J P T E C （日本救急医学会公認病院前外傷教育プログラム）などの外部研修に参加しました。</p> <p>兵庫県医師会の救急災害対策委員長を務める当院救急診療科部長が、熊本地震において J M A T 兵庫（日本医師会災害支援チーム兵庫）の一員として出向し、現地における救急診療に貢献しました。こうした活動は、将来予想される大規模災害時の活用が期待できます。</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時対応訓練や災害対策プロジェクトチーム等、継続的に取り組んでいる点は評価できる。 ・個々の研修参加の実績は年度計画範囲内であり、組織としての災害対応の取組が示されていない。 ・今後は個々の訓練や経験を組織全体のシステムにどう移行させているかを示してほしい。

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

2 高度な総合的医療の推進

(1) 急性期医療の総合的な提供

中期目標	多くの診療科を有する総合病院として、入院や手術を中心とした急性期医療を提供するとともに、複合疾患や患者ケアに総合的に対応する体制づくりを推進すること。
	がんや脳血管疾患、心疾患、消化器系疾患のほか、高齢化の進展に伴い増大する整形外科系、呼吸器系等の疾患に対応できるよう機能の強化を図ること。 また、その他地域で必要な医療の提供体制の充実に努めること。

中期計画	年度計画	法人の自己評価		評価委員会の評価																			
		実施状況（判断理由）	評価	評価	評価判断理由、意見など																		
幅広い診療科が、総合的かつ安定した急性期医療を提供します。 ・内科系（内科、循環器内科、心療内科・精神科、消化器内科、小児科） ・外科系（外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、麻酔科） ・その他（救急総合診療科、放射線科） 各診療科の体制の維持、充実を図るとともに、耳鼻咽喉科医や呼吸器内科医を確保し、各診療科が高度な総合性の発揮という使命のもと整合性をもって連携します。	耳鼻咽喉科をはじめ呼吸器内科や神経内科の体制確保など診療体制の維持、充実を図り、幅広い診療科による急性期医療を総合的かつ安定的に提供します。 また、小児医療についても、体制の充実や小児救急の積極的な受け入れ等に努めます。	<p>平成29年1月に長年の懸案であった耳鼻咽喉科の常勤医が着任し、入院、手術を含めた従前の診療体制を再開しました。</p> <p>また、同じ1月から、内科に包含されていた血液内科、腎臓内科、糖尿病内科を独立させ、循環器内科、消化器内科とともに専門診療科として体制を再編しました。</p> <p>さらに、内科診療全般のオペレーター機能をもつ総合内科を新設したほか、健診科を新設し、特定健診事業を開始しました。</p> <p>【関連指標】（手術件数）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数（手術室施行分）</td> <td>2,563件</td> <td>2,503件</td> </tr> <tr> <td>うち全身麻酔実施件数</td> <td>1,282件</td> <td>1,226件</td> </tr> <tr> <td>手術件数（診療報酬上）</td> <td>5,230件</td> <td>5,090件</td> </tr> <tr> <td>うち3万点以上の高額手術件数</td> <td>446件</td> <td>468件</td> </tr> <tr> <td>骨盤臓器脱手術件数</td> <td>150件</td> <td>186件</td> </tr> </tbody> </table> <p>小児科については、平成28年4月に1名増の5名体制となり、体制の充実を図りました。</p>	項目	H27	H28	手術件数（手術室施行分）	2,563件	2,503件	うち全身麻酔実施件数	1,282件	1,226件	手術件数（診療報酬上）	5,230件	5,090件	うち3万点以上の高額手術件数	446件	468件	骨盤臓器脱手術件数	150件	186件	4	4	<ul style="list-style-type: none"> 手術件数は昨年に届いていないが、高額手術が増えており評価する。総合内科のオペレーター機能に期待する。 年度計画に掲げる呼吸器内科や神経内科の体制確保ができていない。 内科再編や特定健診事業、小児科医師増による実績が不明である。 整形外科・産婦人科・眼科の手術件数が昨年度より減少している。 耳鼻咽喉科の常勤医も確保でき、地域の総合病院としての役割アップにつながる。 計画を上回る診療科とそうでない診療科があるが、総合的には診療体制は充実しつつあり、計画を上回っている。
項目	H27	H28																					
手術件数（手術室施行分）	2,563件	2,503件																					
うち全身麻酔実施件数	1,282件	1,226件																					
手術件数（診療報酬上）	5,230件	5,090件																					
うち3万点以上の高額手術件数	446件	468件																					
骨盤臓器脱手術件数	150件	186件																					

		<p>また、平成 29 年 2 月より、「小児食物アレルギー負荷試験」を始めました。食物アレルギーと診断された子どもに原因となる食物を実際に食べさせて、アレルギーが治ったのか、どれくらいの量なら症状が出ないのかを見極める検査です。1 泊 2 日の入院で十分に観察します。</p> <p>循環器内科は、急性心筋梗塞における D T B (Door to balloon time : 病院到着から再灌流までの時間) を学会ガイドラインが推奨する 90 分以内にすることを達成目標としています。実績は達成率 90% 以上で、夜間・休日も約 90% と高い水準ですが、これは、従前から取り組んでいる 24 時間 365 日の救急受入体制の定着が、職員の意識面も含め、迅速な対応につながっていると考えています。</p> <p>整形外科は、顎微鏡視下脊椎手術、人工関節置換術、膝や肩の内視鏡手術に特に力を入れており、病院全体を牽引する高い成果をあげました。また、紹介患者数が減少傾向にあったことから、平成 28 年 11 月に市近隣（神戸市西区、垂水区等）の開業医を招き、整形外科主催の講演会を開催したところ、その後は当該地域からの紹介患者数が増加しつつあります。</p> <p>消化器内科は、平成 28 年 4 月から常勤医 7 名体制となり、課題であった救急車搬送患者の受入強化については、289 人（前年度 189 人）と病院全体に占める割合は 10%（前年度 7%）になりました。</p> <p>また、さらなる増加をめざした内視鏡検査は、4,074 件（前年度 4,032 件）でした。</p> <p>脳神経外科は、脳血管障害の救急診療について積極的に取り組んでいます。頭痛外来の患者数は増加傾向にあります。</p> <p>泌尿器科は、診療実績が堅調で、上部尿路結石に対する内視鏡手術が 135 件（前年度 131 件）、上部尿路腹腔鏡手術が 13 件（前年度 14 件）、E SWL 新規患者数が 82 人（前年度 65 人）などでした。</p>		
--	--	---	--	--

産婦人科は、骨盤臓器脱や尿失禁の治療等を積極的に行い、子宮脱の手術は全国8位の実績（平成27年度）を誇っています。

眼科は、白内障手術、網膜硝子体手術を中心に、難易度の高い角膜移植なども含め実施しました。また、他科と協力し、乳幼児や血液透析など全身管理を必要とする患者の診療や、全身麻酔の適応症例の手術療法にも対応しました。

毎年1回、明石市眼科医会の総会に合わせてオープンカンファレンスを実施しており、開業医から好評を博しています。

【関連指標】（手術件数：主な診療科別）

項目	H27	H28
整形外科	646件	596件
泌尿器科	400件	417件
産婦人科	333件	309件
眼科	704件	641件

がん領域については、血液内科では白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を、消化器内科及び外科では主に消化器系のがんを、その他皮膚科、泌尿器科、産婦人科等でがん診療を行いました。

当院は、兵庫県の「がん診療連携拠点病院に準じる病院」に認定されています。また、平成28年1月に「全国がん登録」がスタートしましたので、今後はこの仕組みに基づきがんデータの提供を行います（年間700件程度）。

【関連指標】（手術件数：がん領域）

項目	H27	H28
胃/十二指腸切除及び腸切除 (外科)	78件	82件
内視鏡的切除（消化器内科）	59件	61件
膀胱がん	66件	59件
乳がん	14件	14件

		<p>手術に関して、外科では日本内視鏡外科技術認定医を有する院長（平成 27 年 4 月外科に着任）により、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 胃癌・大腸癌に対するあらゆる腹腔鏡手術 2 下部直腸癌に対する自然肛門温存術 3 腹腔鏡・内視鏡合同手術（L E C S） <p>など、前年度から難易度の高い腹腔鏡手術が当院において可能となったことから、手術症例数が増加しました。</p> <p>専門外来については、循環器内科（ペースメーカー、禁煙）、心療内科（うつ病、パニック障害、認知症、心理療法・カウンセリング、思春期・青年期）、消化器内科（肝臓）、小児科（血液、心臓、神経、アレルギー、慢性疾患、乳児健診、予防接種）、外科（乳腺、血管）、脳神経外科（頭痛）において実施しました。</p> <p>平成 29 年 1 月からは、耳鼻咽喉科の常勤医着任に伴い、頸部エコー外来を始めました。</p> <p>また、皮膚排泄ケア認定看護師によるストーマ外来及び糖尿病療養指導士によるフットケア外来を実施しました。</p>		
--	--	--	--	--

（2） 救急医療の推進

中期目標	二次救急診療や一次救急の後方支援、地域の小児医療の要として小児救急の充実など、地域の基幹病院として救急医療のさらなる充実と受入強化を図り応需率を高めること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価		評価委員会の評価		
		実施状況（判断理由）	評価	評価	評価判断理由、意見など	
院内各科の密接な連携により、救急患者の受入要請にできる限り断ることなく最大限応えていきます。医療スタッフのスキルアップなど救急受入体制の充実を図り、緊急かつ重篤な患者を一層受け入れるほか、小	院内各科の密接な連携により、救急患者の受入要請にできる限り断ることなく最大限応えていきます。 救急スタッフのスキルアップやオンコール体制の徹底等による救急体制の充実を図ります。小児救急につ	<p>救急医療については、年間を通じて積極的な受入れを実施し、救急車による搬入患者数は 2,771 人（前年度 2,773 人）で、ほぼ前年度と同じ水準でした。入院化率も前年度並の平均 50.0%（前年度 49.9%）でした。</p> <p>明石市内の救急車による搬送数の 15.2%（前年度 15.7%）を受入れ、また、入院を必要とする中等症以上の救急搬送患者については明石市内の 16.3%（前年度 17.0%）を受入れるなど、安定した取り組みにより地域の</p>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・お断り率は前年度より減少しているが、年度目標に達せず中期目標どまりである。 ・お断り率の改善のため、原因検索などのシステムの構築などの取組等を期待する。 	

<p>児救急については、地域医療機関からの救急要請に応える時間外の小児二次救急体制の充実等さらなる積極的な対応に努めます。</p> <p>また、救急隊との症例検討会の開催により、市消防本部等とのさらなる連携強化を図ります。</p>	<p>いても、時間外の救急対応など引き続き地域医療機関との連携のもと積極的な対応に努めます。</p> <p>市消防本部等と、救急受け入れに関する最新情報など、意見交換を積極的に行います。</p> <p>救急医療の一翼を担いました。</p> <p>また、明石市外からの救急車搬送患者の受け入れは、神戸市西区 571 件、垂水区 155 件など合計 865 件で、救急車搬送受け入れ全体の 31.2% でした。</p> <p>循環器内科の救急診療は、平成 24 年度から実施している 24 時間 365 日の受け入れ体制を継続し、救急車による搬入患者数を院内で最も多く受け入れています。</p> <p>小児救急については、東播磨臨海地域小児二次救急輪番体制に参加し、第 1、4 木曜日と第 2、4 日曜日（明石市内ののみ）の月 4 日を受け持っています。年末年始においても小児外来を実施しました。また、地域の医療機関からの救急対応として、平日の 20 時 30 分までと土曜日の午前中は小児二次救急体制を取っています。</p> <p>「D M E R C (医師現場派遣用緊急自動車)」は稼働 4 年目を迎え、出動件数は 50 件（前年度 36 件）、うち当院への搬送は 17 件（前年度 12 件）でした。</p> <p>市消防本部との意見交換会を平成 28 年 11 月に、神戸市西区消防本部とは平成 28 年 9 月に、それぞれ開催しました。</p> <p>【関連指標】(救急患者受入数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>H27</th><th>H28</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>循環器内科</td><td>561 件</td><td>831 件</td></tr> <tr> <td>小児科</td><td>476 件</td><td>451 件</td></tr> <tr> <td>脳神経外科</td><td>220 件</td><td>312 件</td></tr> </tbody> </table>	項目	H27	H28	循環器内科	561 件	831 件	小児科	476 件	451 件	脳神経外科	220 件	312 件	
項目	H27	H28												
循環器内科	561 件	831 件												
小児科	476 件	451 件												
脳神経外科	220 件	312 件												

【目標値及び実績値】

項目	平成 27 年度 実績値	平成 28 年度 目標値	平成 28 年度 実績値	目標値 との差	中期計画 目標値
救急車による 搬入患者数	2,773 人	2,700 人	2,771 人	+71 人 (+2.6%)	2,700 人
救急車 お断り率	29.0%	20.0% 以下	24.7%	+4.7 ポイ	25.0%

(3) 予防医療及び市と連携した政策医療

中期目標	市民の健康増進を図るため、市の保健・福祉行政と連携して、各種健康診断の実施やハイリスク小児の予防接種への対応、社会問題となっている認知症の初期鑑別診断などの社会的要請に応えていくこと。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価		評価委員会の評価															
		実施状況（判断理由）	評価	評価	評価判断理由、意見など														
一般的な健康診断のほか、地域の小児科の中核病院として乳児健診や小児の予防接種を実施するなど、市民の健康増進への貢献に努めます。 また、認知症対応にかかる県登録の専門医療機関として、かかりつけ医からの紹介に基づく初期鑑別診断等を、より積極的に行います。 市との連携について、救急医療や小児医療、高度医療などの政策医療を確実に実施するほか、市政の推進において市民病院として求められる連携に積極的に応えていきます。	一般的な健康診断のほか、乳児健診や小児の予防接種を実施するなど、市民の健康増進への貢献に努めます。 また、認知症対応において、かかりつけ医からの紹介に基づく初期鑑別診断等を、より積極的に行います。 市との連携について、救急医療や小児医療、高度医療などの政策医療を確実に実施するほか、市政の推進において市民病院として求められる連携に積極的に応えていきます。	<p>一般的な健康診断（週3回）を実施したほか、小児科において乳児健診（週1回）や予防接種を行いました。 平成29年1月に健診科を開設し、特定健診事業及びがん検診（大腸がん、胃がん、肝炎ウイルス、乳がん、子宮がん）を開始しました。</p> <p>認知症対応においては、初期鑑別診断を引き続き積極的に行い、平成28年度は367件でした。</p> <p>市の政策医療の実施に関しては、救急医療、小児医療、高度医療機器を用いた診断、リハビリテーション医療等を確実に実施しました。</p> <p>【関連指標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">心臓リハビリテーション</td> <td>延患者数</td> <td>4,921人</td> <td>4,209人</td> </tr> <tr> <td>実施単位</td> <td>8,862単位</td> <td>7,440単位</td> </tr> <tr> <td>認知症初期鑑別診断</td> <td>384件</td> <td>367件</td> </tr> </tbody> </table> <p>市政推進における連携として、市関連の地域包括支援センターに看護師を派遣し（平成28年10月から2年間）、高齢者への総合的な相談支援等に携わっています。 また、市主催による、医療と介護の連携の推進を目的とした「多職種連携学習会」が、当院において当院の心療内科医が講演するなど、市と病院が協力して開催されました。 さらに、兵庫県から明石市への保健所移管に伴う放射線技師（市職員）の採用にあたり、当院放射線技師から市担</p>	項目		H27	H28	心臓リハビリテーション	延患者数	4,921人	4,209人	実施単位	8,862単位	7,440単位	認知症初期鑑別診断	384件	367件	4	3	・関連指標は前年度より減少しており、その他の実績が十分提示されていないが取り組んでいる現状から計画どおりと評価する。
項目		H27	H28																
心臓リハビリテーション	延患者数	4,921人	4,209人																
	実施単位	8,862単位	7,440単位																
認知症初期鑑別診断	384件	367件																	

		当部署へのアドバイスを行いました。 その他、体育大会等の学校行事や駅前再開発ビル内覧会等へ救護担当として看護師を派遣しました。		
--	--	--	--	--

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

3 利用者本位の医療サービスの提供

(1) 医療における信頼と納得の実現

中期目標	患者やその家族等の病院利用者に対し、市民病院の役割・機能について、わかりやすく説明し、有意義な情報を探求すること。 インフォームド・コンセントを徹底するなど患者からの信頼と納得が得られる医療の提供に努めること。
------	--

中期計画	年度計画	法人の自己評価	評価委員会の評価		
		実施状況（判断理由）	評価	評価	評価判断理由、意見など
「入退院支援センター」で入院から退院まで患者をサポートし、病院生活に関する不安を少しでも解消していくなど、医療スタッフは、患者やその家族の目線に立った対応で信頼関係の構築に努めます。 また、インフォームド・コンセントについて、看護師さらには必要に応じて医療ソーシャルワーカーが同席し、医師とのやりとりをフォローして患者や家族の不安を軽減しつつ実施するなど、十分な納得が得られるよう対応します。	「入退院支援センター」の円滑な運用により患者の不安を軽減するなど、入院から退院まで一連の流れで患者をサポートします。 インフォームド・コンセントについて、看護師やMSWが患者や家族をフォローしながら、十分な納得が得られるよう対応します。	<p>入院から退院まで切れ目なく患者をサポートするしくみである「入退院支援センター」について、予約センターや紹介カウンター、入院サポートセンター、医療ソーシャルワーカー等が一連の流れにそって連携し、患者や家族の目線に立って対応しました。</p> <p>インフォームド・コンセント（IC）に関しては、説明用紙の見直し等を行い、実施する際は看護師さらには必要に応じて医療ソーシャルワーカーが同席し、患者や家族の表情から察したことを調整し、また、患者の代弁者になって医師と話をするなど、患者の心理的負担の軽減に努めました。</p> <p>このほか、薬剤師による服薬指導、管理栄養士による栄養指導、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士によるリハビリテーションの実施においても患者にわかりやすく説明を行うなど、様々な職種がそれぞれの専門性を発揮することで、ICの充実を図りました。</p>	3	3	・入退院支援センターの連携状況など可視化しにくい内容であるため、実施状況の示し方について検討が必要である。